

各企業等の社会貢献活動

平田建設 i-Con 出前講座
生産性向上の取組解説
帯工高生対象 リモートで



現場事務所と学校を結びICT工事を紹介した

「帯工高生の省力化はICTも及ぼす」とも盛平をICT工事にたどった。生徒たちは「現場のトラフィックはどのくらいか」「起工測量の際のGNSSの受信にはRTKを使用しているのか」と専門的な質問も行うなど、i-Constructionに大きな関心を示していた。

「帯広圏」帯広建設(土幌 長谷川雅毅社長)は10日、帯広工業高校の生徒を対象に、i-Constructionオンライン出前講座を行った。環境土木科の2年生約40人が参加。帯広尾自動車道の改良工事現場事務所と学校を結び、ICT工事や3次元モデルによる構造物の施工手順の効率化など、最新技術による生産性向上の取組について解説した。

出前講座は、帯広開建発注の「帯広尾道大樹町歴舟道路改良」「帯広尾道大樹町大樹北改良」の現場事務所と教室をオンラインで結んで実施。冒頭、長谷川社長は担い手の確保・育成が建設業界の喫緊の課題があることについて「i-Constru-

ctionを通じて安全確保や生産性向上による働き方改革の推進に取り組む業界の現状を学ばせたい」と話した。講師では、荻野喜貴業務課長が会社概要や建設業界だけの建設物を選び上げるものへの魅力や、自身が携わった仕事や孫の世代まで暮らすを夢にする貢献度の大きさなどを伝えた。また、ウェアラブル端末による現場状況の共有やパ

ワーアシストスリによる作業負担の軽減など、建設業界で取り入れられている最新技術も紹介した。帯広開建帯広道路事務所職員は、帯広尾自動車道をはじめとする高規格幹線道路の整備効果の説明。日立建機備の寺田昭仁氏は、MCバックホーによる

「帯広作業の省力化はICTも及ぼす」とも盛平をICT工事にたどった。生徒たちは「現場のトラフィックはどのくらいか」「起工測量の際のGNSSの受信にはRTKを使用しているのか」と専門的な質問も行うなど、i-Constructionに大きな関心を示していた。